

- 1 開催日時 令和6年11月20日(水) 午後2時から4時まで
- 2 開催場所 静岡県立三島北高等学校 図書室
- 3 出席者 (1)令和6年度 学校運営協議会委員(5名、敬称略)
出席…浦川加代子、千葉愼二、土屋賢太郎、内田新一、沈久美
欠席…渡邊 康男

(2)学校代表(4名)
出席…松下明子(校長)、勝間田浩文(副校長)、増田佳子(教頭)
村松弘文(事務長)

4 議事(次第)

(1) 校長挨拶

- ・本年度の学校経営計画についての説明。
本校のスクールミッション「イノベティブなグローバル人材の育成」
世界中の仲間と協働しながら新たな価値を創造していく、そのような人材を育てるべく日々の教育活動を行っている。
- ・本校の探究は1年生でSDGSを基にグループで課題を見つけフィールドワーク等を通して探究を進め解決策を考えていく、そして2年生はその解決策をビジネスプランに落とし込むというプログラムになっている。本日はその2年生のビジネスプランの発表を見学していただき、本校の特色の一つである探究学習を知っていただき、また新たな視点から御意見をいただきたく今回の学校運営協議会を開催した。

(2) 自己紹介

(3) 学校の教育活動について

ア 本校の教育活動に関する中間報告 [副校長]

- ・Instagram、新聞掲載記事を用いての学校行事の紹介
(紫苑祭、三島サンバ、海外研修、海外修学旅行 他)
- ・修学旅行については2年部学年主任から報告
5年ぶりの海外修学旅行、保護者にとって金銭的には大きな負担になったが生徒にとっては非常に有意義であった。自分たちが外国人になる経験が生徒にとって大変刺激になっている。今は受験にシフトしている。
- ・予定されていた学校行事がすべてできている。
- ・働き方改革もあるので実施方法、真に必要な行事を見極めていかなければ

- ならない。
- ・探究学習について今年度は三菱みらい育成財団の助成事業に採択された。また、行きたい学校づくり三島・田方地区探究学習拠点校に指定された。
 - ・三島サンバ、文化祭、銀杏並木の清掃等PTAと一緒にを行う行事も復活し、学校と保護者の親睦も深まっている。
 - ・部活動の成績について
運動部では水泳部、陸上部が全国大会に出場
文化部では箏曲部、新聞部が全国高等学校総合文化祭に出場
 - ・本校の図書委員会が2024年度子どもの読書活動優秀実践校として文部科学大臣表彰を受けた。校内、地域における読書の推進などが評価された。

(質問) 海外研修や STEAM for SDGS の費用はどのような形で賄っているのか。

(回答) 基本的には受益者負担。三菱みらい育成財団、県の事業の「行きたい学校づくり」推進事業、地元の企業、同窓会、後援会からの支援を受け、個人の負担が大きくなりすぎないように工夫している。

イ 本校の教育活動に関する質疑・意見交換

○本校の印象、良い点やこうすれば魅力的な学校になるといった話をお聞かせください。[副校長]

(意見)

- ・公立高校でここまで充実した英語教育ができ、ワールドワイドな体験ができるのはありがたいのではないかな。
 - ・グローバル人材の育成を目指しているというだけあって英語の研修、内容が充実しているという印象を受ける。ただこれを支える先生方が大変である。こういったものを毎年新たに企画してやっていく、続けていくのは大変なので、これを伝統として積み重ねていき、内容をさらに磨きをかけていけば魅力化につながる。
 - ・三菱みらい育成財団、県の事業がいつまでもあるわけでないで、それに頼らずにできるような工夫をしていけたら素晴らしい。人とお金、先生方の努力と財源的な物を継続していけるとよいと思う。
- おっしゃるように、学校でも自走できるような手立てを考えていかなければならない。[副校長]

- ・中学生のお子さんを持っている方なら、受検等で真剣に学校選びをする時にはインスタや学校案内を見たり、学校見学をしたりすることで、三島北高校が他校に比べグローバルな方向を目指しているということが伝わるが、中学生や高校生の子供がいない世代には三島北高校のイメージが伝わっていないのではないかな。そういったイメージをどこに発信していくのか、30年、40年かけて伝統とした形で伝えていくのか。まずは在校生や入試で三島北を考えている中学生にこういう学校なんだと伝えていくことを一つ一つやっていくことが結果として三島北高校の伝統が新しく育っていくことになるのでのんびりやったらいいのではないかな。

- ・奥ゆかしい校風なので、私たちはこれをやっていますとこれまではあまりアピールをしていない。
 - ・情報発信はこういった時代なのでもう少しあってもよいのではないか。
 - ・回覧板などで三島北高校の活動が多少なりともわかるような広報も必要。
- 開かれた学校であるために、生徒募集のためだけでなく学校はこういった活動をしていますよといったことを積極的に何かしらの形で発信していく必要があると考えている。[校長]

- ・老人会が減っていき、活気がない状態である。そういった状況なので高校生と接点を持ちたい。何かいい機会が作れないか。老人会との意見交換の際に要望を聞いてみる。
 - ・本校の特徴として、卒業生がこの地域（三島市）に留まるので、同窓会の充実と地域の交流というところから、その場に在校生が入っていくという形はありえるかと思う。
- そのようなことができれば大変ありがたい。生徒にとって、親とか我々教員以外の大人とふれあう機会が減っている。音楽部が老人ホームのお祭りに招かれて大変貴重な体験となったと話をしていた。[副校長]

- ・もっといろいろなことを外部に支援を要請し、先生方の負担を減らしていき生徒に還元してほしい。
- ・グローバルな人材育成を目指しているので三島市の国際交流協会に要請し、イベント等にボランティアとして参加させてもらうのはどうか。参加することで外国の方たちと交流が持てる。
- ・国際交流協会は定期的にいろいろな国と交流会を行っている。そこに三島北高校の生徒が入っていけたら活発な交流が期待できる。

- ・生徒の精神的健康に三島北高校は力を入れているということを昨年度の学校運営協議会で話をされていた。今年度の生徒の様子はどうか気になった。健康でいじめもなく幸福感を感じながら生活ができているのか。
- 教育相談の体制もしっかりしている。心配な生徒はスクールカウンセラーに定期的に見てもらっている。いじめのアンケートを行い洗い出しを行っている。子供たち同士のトラブルはあるが、担任をはじめとする学年部、養護教諭が支援をしている。他校と比べ比較的少ないほうではないか。[教頭]

- ・ヤングケアラーはなかなか言い出せないし、本人は問題だと思っていない、自覚がない時もあるので心配。そういった生徒がいれば寄り添ってほしい。
- 本校の職員の様子を見ていると面談をよくやっている。生徒と話をしている何か変化があったときはすぐに担任、学年主任、相談室・管理職に案件が共有できる流れができている。[副校長]

- 3 総合的探究の時間の見学
本校の特色の一つである総合的な探究の時間の見学をしていただいた。
- 4 その他
 - (1) 会議日程の確認
第3回 令和7年2月5日（水）午後2時（主な議題は学校自己評価）
 - (2) 御意見・御感想の依頼